

Wood and Canvas Canoe Building Workshop

アメリカ北東部のアベナキインディアンたちは、木のフレームに樺の皮を貼り付けたバークカヌーと呼ばれるものを昔から作っていました。白人たちは樺の代わりにキャンバスを張ることを思いつきました、キャンバスカヌーの誕生です。

キャンバスカヌーの誕生についてはいろいろな説がありますが、Evan Geerrish という人がメイン州のBrownvillで最初に作ったと言うのが一般的に知られています。1872-1880年頃の話です。そして専門的に作る会社が現れ形が完成されていきます。1889年に制作を始めたEM White、BN MorrisそしてOldtown Companyです。オールドタウン社は今でも制作を続けています。

今回製作するカヌーは このEMWhiteのものを元としています。「メインガイドカヌー」と呼ばれているもので主にメイン州の川でガイドたちに使われてきました。17フィート超の大きなカヌーなので琵琶湖の様な大きな湖でも比較的安全に航行することが出来ます。大きいのですが、水の下での抵抗を受ける部分は少ないので一度漕ぎだすと比較的楽にスピードに乗ることが出来ますし、かなり浅い川でも進むことが出来ます

作業は木型の上にリブ（肋材）を蒸して曲げ付け、その上にプランク（下地になる薄い木）を張っていきます。型から外してキャンバス(今回はダクロンを使います)を張って、防水材を塗り、シートを取り付けてペイントすれば出来上がりです。

一度には2-4人ほどが船体にかかって作業します。その他の人は交代でそれぞれ自分のパドルを作ってもらふことになります。パドルは持って帰れます。



Blockplane

材料はある程度加工しておきました。また工具は全て用意しているので必要ありませんが、もし自分のを持ってきたければ、こんな工具を使うので参考にしてください。

手慣れたハンマー：玄能でもいいです。叩く面が少し凸（膨れているもの）釘の頭を叩いたときに木に傷をつけません。

バックングアイアン ハンマーで叩く反対側から木に当てて打たれて出てくる釘を曲げつけます

カッターナイフ、下張りの木の板は薄いので、のこぎりは使わないでナイフでカットします。インディアンの人たちはが使うクルックナイフを使う人もいます。曲がったナイフです。

スポークシェーブは引いて削ります。曲面を削ったり、綺麗に仕上げたりするのになくてはならない工具です。カナは基本的に平面を作る工具です。ブロックプレーンは片手で使い削って形作るのに用いられます。ノコギリはもちろん使います。



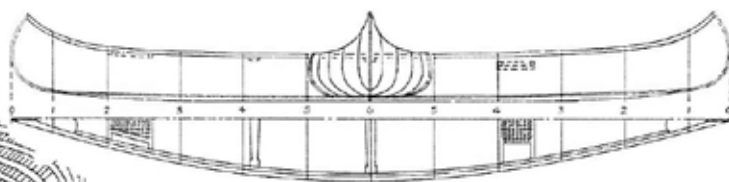
Spokeshave

使いやすいプライヤー、ラジオペンチなどがあると役に立つかもしれません。ノミが使える人、使ってみたい人はあってもいいかもしれません。作業用の手袋（軍手は用意します）作業服（手首が閉まる服）粉塵マスク（軽作業用の粉塵マスクは用意します）作業用ゴーグル（プラスチックの簡単なものは用意します）ノートと筆記具は意外と役に立ちます。

それではワークショップでお会いするのを楽しみにしています。



Wood-Canvas Canoes



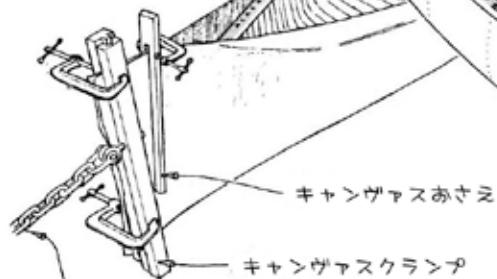
Indian Girl — 16' Rushton canvas-covered canoe — 1901

木型
ひのきのリア
鉄のベルト

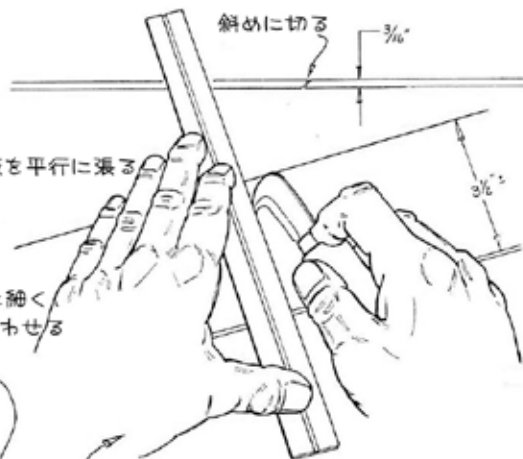
ステム
インウエール

木型から外せるように
ここは止めない

木型からはずしてから
ステムに止め付ける



チェーンで動かないように固定する



斜めに切る $\frac{3}{16}$ "

外板を平行に張る
幅を次第に縮く
船体の形に合わせる

重なる部分は鋭利な刃物で
少し斜めに切る

きつく張ったキャンパスの中に
カヌーを入れてプライヤーで
引っ張りながらキャンパスを止める

デッキ
スウォート
インウエール

キャンパスあそえ
キャンパスクランプ